

健康回復支援実習

[実習] 第3学年 後期 必修 3単位

《履修上の留意事項》健康回復支援実習は、健康回復支援実習（3単位）と健康回復支援実習（3単位）により構成される。
健康回復支援実習を履修した上で、健康回復支援実習を履修することを原則とする。

《担当者名》○熊谷 歌織 kaori@hoku-iryo-u.ac.jp 唐津 ふさ 神田 直樹 高木 由希 伊藤 加奈子 桑原 ゆみ

【概要】

疾患・病気を抱えた対象者の健康回復を目指し、セルフケア能力を維持・促進する看護援助を実践的に学ぶ。
学生は、病院施設において患者を受け持ち、看護過程を用いて主体的に看護実践を行う。

【学修目標】

1. 看護援助を通して、対象者との間に援助的人間関係を形成できる。
2. 対象者が、疾患・病気を抱えるということにより受ける影響を全体的に理解できる。
3. 対象者の健康回復を目指し、セルフケア能力を維持・促進する看護援助を計画できる。
4. 立案した看護計画に基づき援助を実施し、対象者の視点で評価できる。
5. 専門職業人としての自己の課題を考えることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1週	受け持ち患者の理解とアセスメント	1. 受け持ち患者との援助的人間関係の形成 2. 情報収集 3. アセスメント 4. 全体像の把握 5. 疾患・治療の理解	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・桑原
第2週	看護計画立案	1. 看護目標の明確化 2. 看護計画の立案 3. 受け持ち患者との援助的人間関係の維持・発展	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・桑原
第3週	看護計画の実施と評価、修正 実習のまとめ	1. 看護計画の実施、評価・修正 2. 受け持ち患者との援助的人間関係の維持・発展 3. 実習目標達成度の評価と自己課題の明確化	熊谷・唐津・神田・高木・伊藤・桑原

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

1. 実習終了時に以下について総合的に評価し、単位を認定する。
実習目標達成度（60％）、レポート（15％）、実習記録その他（25％）
2. 学生は、自己の体験を客観的に見つめ、自己の課題を明らかにするために、目標達成度評価表を用いて自己評価する。
3. 実習目標達成度については、実習終了時に評価面接を行い評価する。
4. 評価の内容は提出資料に記載し、その返却をもって開示する。

【教科書】

特に定めない。

【参考書】

実習内容や学習状況に合わせて提示する。

【学修の準備】

1. 実習開始前に、受け持ち患者の病態や治療、および必要と考えられる看護援助の内容と方法について学習し、所定の様式を用いて行動計画を作成する。（90分）
2. 実習終了後は実施記録を作成し、次の実習に向け考察する。（90分）
3. 3年前期までに履修した全科目がこの実習の基礎となる。そのため、使用したテキスト・資料等を整理し復習しておくこと。特に人体構造機能学、成人病態と臨床実践 ～ は最も基礎となる科目であり復習は必須である。

4．血圧測定、全身清拭、洗髪、移動等の履修済みの看護技術は身に付いていることが求められる。実習開始までに十分に練習し、身に付けること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3．社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実習方法】

- 1．実習期間 3年後期の指定された3週間
 1 クール目 2025年9月22日～10月10日
 2 クール目 2025年10月27日～11月14日
- 2．実習施設
北海道大学病院、札幌医科大学病院、札幌厚生病院、手稲溪仁会病院
学生はこの中のいずれか一施設で実習する。
- 3．ICTの活用
GoogleClassroomを利用して、課題提示を行う。

【実務経験】

熊谷 歌織(看護師) 唐津 ふさ(看護師) 神田 直樹(看護師) 高木 由希(看護師) 伊藤 加奈子(看護師) 桑原 ゆみ(看護師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における実務経験を活用し実践現場での学習の意味づけを行うことにより、看護者としての実践力を養うことができるよう助言・指導を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している